

二〇二三年度

二月一日午後入試

国語 (45分)

注意

- 1 開始の「チャイム」が鳴るまでは、中を見てはいけません。
- 2 答えはすべて解答用紙の解答らんに、はつきり書きなさい。
- 3 終わりの「チャイム」が鳴ったら、とちゅうでもやめなさい。
- 4 問題のページは、2－1 から 2－11 まであります。

一 次のⅠ・Ⅱの文章を読んで、後の問いに答えなさい。（字数制限のある場合は、句読点や記号も字数に数えます。）

Ⅰ

私どもの生活の中に、科学がどのような形で入ってきているか、というようなことを述べてみようという御依頼であるが、これは私にとっては一番苦手のことである。私は科学の研究を始終やっている者であるが、私の研究していることは、科学のいろいろな分野の中でも特に日常生活とは縁の遠い方面なのである。^①つまり日常生活とはまだ関係がついてこないというような、未知な領域の研究をやっているのである。

科学のどういう方面をとって見ても、最初は人間に身近なもの、日常経験の世界から始まる。私どもの住んでいるこの世界、自然的な世界、そういうものをもっとよく知りたい、われわれのよく理解できないことを詳しく調べて、その原因をつきとめたい。あるいは、われわれの日常目に触れるものよりも、もっと向うに、何かそれよりも、もっと根本的な物というか、本質というか、そういうものがあるらしい、それを見つけた。たとえば、われわれの目に見えるいろいろなもの、いま私の目に見えるいろいろなもの、私の目の前に置かれているマイクロホンであるとか、机や椅子であるとか、時計であるとか、そういう物がどういう仕掛けで動くか、どういうわけでも同じ形を保っているのかというようなこと、それをつきつめて調べて行くと、結局、それが原子からできており、さらに原子そのものがまた、もっと細かな粒子からできていることがわかってきた。そういうわけで出発点はわれわれの日常生活と縁の近いことであつたのが、だんだんと進んで行くにしたがつて、だんだんと日常の世界から縁遠くなって、人間ばなれがしてゆく、いいかえれば問題が抽象的になってくるのを免れない。

私どもが研究している素粒子というようになると、これはまた原子を、さらに細かに分けて、最後に残るのが素粒子だと、われわれは思っているのであるが、そういうものは、直接われわれの目に触れるものとはまるっきり様子が違う。そういうわけで、はじめに述べたように、日常生活の中に、科学がどのようにに生かされているかというようなお話は、これは一番私の苦手とするところである。

しかし私があらためて申すまでもなく、今日の私どもの生活のあらゆる方面に、科学の生み出した結果はいり込んできている。ラジオをきき、電車に乗り、自動車に乗り、というようなことは、科学が生活の中に浸潤しているということの、ごく一部にすぎない。私どもの周囲にあるほとんどあらゆるものを生産する過程の中には、科学の成果がいろいろな形で取入れられているのである。^③

しかし科学の影響はそういう「物の世界」だけには限られていない。科学文明というところすぐアメリカが引合いにでる。「現在のアメリカ人の生活というものの中には、あらゆる方面に科学が浸透しており、日常生活にも、電気冷蔵庫とかテレビジョンとか、そういうものが身近にあつて、日本人の一般の生活と比べれば、はるかに科学というものが多くはいり込んでいる」というような言葉がきまり文句になっている。それは一応その通りに違いない。

しかし、科学の影響力というものは、そういう、いわゆる文明の利器というものに限られているのではない。科学が進歩し、それが日常生活の中に入ってくるというのは、単に目に見える形で入ってくるだけでなく、われわれの物の考え方、生活態度というようなものが、それと一緒に変わって行く点、そこにむしろ一つ一つの文明の利器が使われるということと同等以上の重要性があると思う。

たとえば、科学が発達しておらなかった時代、あるいは科学者は科学を研究していても、それが一般の人たちには非常に縁遠く、科学が一般人の生活の中に入っていない時代には、一般の人たちの物の考え方

というものは、今日とは非常に違^{ちが}っていた。ずっと昔の未開時代から続いているいろいろな習慣、迷信^{めいしん}というようなものが、何の反省もなく信じられておつて、昔からのしきたりだから、その通りにする。そのようなしきたりの中には、特に害毒もなく、そのまま続いておつても差しつかえない、

A

、それがわ

れわれの生活を豊かにしているというようなものもたくさんある。たとえば、私の住んでいる、この京都の町、こういう古い町には、昔からのしきたりにしたがつて、いろいろな年中行事がある。祇園祭^{ぎおんまつり}であるとか、大文字^{だいもんじ}の送り火であるとか、その他さまざまな年中行事があるが、こういうものは、その多くは楽しいものであり、美しいものであり、われわれの生活にうるおいを与^{あた}えている。よそからくる人も、それを見て楽しむ。これらは非常に結構なことで、特に問題とすべきことはない。

B

、そういうものに伴^{ともな}つて、いろいろな迷信が残存している場合がある。たとえば、どういふうにすれば病気が治るとか、どういふことをしなければ祟^{たた}りがあるとか、いろいろなことが信ぜられ、行われている。そういうものも、その人が、そういうおまじない、その他のものを信じて、それでそういう気持になり、その人の気分を軽くし、それで気持が快くなり、健康状態にも良い影響^{えいきやう}があるという限りにおいては、何も悪いことはない。しかし、そういうのが、だんだん極端^{きょくたん}になると、現代の医学の教えるところにしたがつて科学的な方法で病気を治すということに対する努力が薄^{うす}らぐ。④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈 㽉 㽊 㽋 㽌 㽍 㽎 㽏 㽐 㽑 㽒 㽓 㽔 㽕

過去というものは、なにも全部が消えてしまうのではないのであって、われわれの心の中に、そういうものが、まだ生きているのである。われわれが意識しない、潜在意識せんざいというか、そういうふうなものの中に、あるいはわれわれの身体の中に、歴史というものが実は生きている。われわれは多くの場合気がつかないのだが、そういうものが生きている。またわれわれの外では、古い建物というようなすぐ目につくものだけでなく、いろいろな古くからの習慣という形としても残っている。

過去というものは、決してすっかり消えてなくなるものではない。そういうものの中には、先ほど申したように、今日の科学の、われわれにとって正しいと思われる知識に照し合あわせてみて、明らかに間違まちがって、捨ててしまわなければならない部分がたくさんあるが、その反面には、そういう時間的な奥行おくゆきというものがあることによって、そうしたものの良い面を生かすことによって、われわれの生活にうるおいができ、新しい国では味わえないような喜びというものを味わうことができるのである。

結局、科学といっても、そんなにこれを狭く解釈かいしゃくして、昔からあるものすべてと矛盾むじゆんし、科学が進むということとは、そういう昔からあるものをただ捨てて行くのだ、新しいもので置換おきかえて行くのが社会の進歩だ、というように一概いちがいに考えるのは、必ずしも当あたておらない。そういう一方的な方法によって、人間の生活がほんとうに幸福になるというようなことは保証されていない。特に人間の美意識といわれるものは、非常に長い人間の歴史の中で徐々に出来上がってきたものであろうから、新しいものだけでは、人間の美意識に十分な満足を与えることができない。アメリカ人が同じ人種のヨーロッパ人とくらべて、そういう方面の関心かんしんが薄うすいというか、何か微妙な違いがあるように思われるのも理由あることであろう。

⑧ 日本の場合など、殊ことに京都のような古い都会に住んでいると、そういう古いがしかし、いうにいわれぬ美しさをもったものを生かしたいと思うが、同時にまた、日常の生活にもっともっと科学が取入れられてしかるべきだと思われる面もたくさんある。しかし、前にもいったように、どういうふうにすれば、もっと日常の生活の中に科学が入って行き、生活が便利になるかというような問題を一つ一つ取り上げると同時に、われわれの物の考え方というものが、もっと科学的になるということが伴ともなわねばならない。

ところで科学的なものの考え方というと、すぐに四角四面なゆとりのないもののように思われがちであるが、科学の進歩ということは、われわれのものの考え方※よくしゆに幾度いくども根本的な変革を要求してきたのであって、初めから粹わくにはまった固定した考え方を墨守もくしゆしていたのでは、本質的に科学を発達させることはできない。したがってゆとりのある考え方が、かえって本当に科学的なのであるともいえるのである。頭のはたらきが機械的になってしまったら、科学の本当の進歩はとまってしまふのであろう。

話が少し漠然ぼくぜんとしてきたけれども、私は純粹じゆんずいな科学の研究者で、初めにも言ったように、もともと日常生活とは縁遠い、われわれの住んでいる自然界の本質というようなものを、どこまでも細かく調べて行き、そしてそこからわれわれの住んでいる世界を支配している根本的な法則はつそくというものを見つけ出す、そういうことにばかり努力を集中してきたのである。しかし、そういう研究をやっている間にだんだんと気になってきたことは、果してそういう科学の進歩ということが、それだけでわれわれ人間の生活に、ほんとうに幸福を与えるものであるかどうかということである。このことが、だんだん気になってきた。この問題は、特に原子爆弾ばくたんだんの出現以後、非常に深刻な、痛切な問題となってきた。科学者のみならず、一般いっぱんの皆さん方にも気にかかることに違ちがいなくと思う。

私はいつも思うのだが、科学の研究というふうなもの、もっと広くいえば、真理を探究するということとは、それ自身確かに価値のあることであって、人間がほんとうに人間らしくなるといことは、そういう真理なら真理、あるいは美しいものであれば美しいもの、それをそういうものとして探究して行くという気持きもちに目

覚めたところから始る、ほんとうの文明とか文化というものは、そこから発足したものであると思う。これは今さら言うまでもないことで、そういうことについては私の考えは以前も今も変わらない。

しかしそれと同時に、人生にとって一番大切なことは、人間が大勢集って社会生活をしている、その中でどうすれば皆がしあわせに暮して行けるか、言いかえれば、人間と人間の関係が、どうすればうまく調節されてゆくか、そういうことが、人生においては一番大切なことではないのか、そういう方をおろそかにしておれば、いくら科学が進歩しても、結局それが、人間にはほんとうの幸福を与えるものにはならないかも知れない。それでは科学の進歩も結局無意味なのではなからうかという疑惑が、始終私の頭を去来している。それで日常生活と全くかけはなれた自然界を探究するというだけでなしに、人間関係というものに対して、も、だんだんと余計に大きな関心をもつようになってきたわけである。

こういう問題は、簡単に述べることはできないが、先ほどの話を一言にしていえば、要するに、科学が進歩するといっても、それと同時に、われわれの物の考え方が合理的になり、同時に、だんだんと包括的というか、いろいろな考え方を調和し、それを包んで、ゆとりのある物の考え方になり、それに伴って、人間界のさまざまな矛盾とか争いというようなものも、そういうところから、だんだんと解決されて行くようになり、それで初めて人間がほんとうに進歩した、ほんとうに科学というものが生かされたことになるのだ、と私は考えているのである。

(湯川秀樹『湯川秀樹自選集 第一巻 学問と人生』より)

II

熊本県水俣市で、新日本窒素肥料(現在のチッソ)が垂れ流した有機水銀(メチル水銀)によって多くの人を苦しめた水俣病も、それに続く新潟水俣病(昭和電工の工場廃水による)も、治療に必要な血液製剤に混入していたHIVウイルスによって多くの血友病患者の命を奪ったり苦痛を強いることになった薬害エイズも、「優れた」断熱材として多くの建築物に使われたアスベストも、すべて「安全性が疑わしい」と感じたそのときに対策がなされなかったことによって被害が拡大しました。

なぜ、迅速な対策がとられなかったのか? 対策を講じない理由としてそのとき多くの場面で使われたことばが「科学的に確たる証拠がない」というものでした。危険性が確実だという科学的根拠がない時点では、問題の物質を使用禁止や製造禁止にしたりするなどの政策はとれないというのです。この理屈で考えると、危険性が実験などによって実証され、その結果を国や社会全体が認めるまでの間は、「安全である」ということになってしまいます。

いま、わたしたちの周りには、科学的には危険が証明されていないけれども、安全が危ぶまれていることがたくさんあります。と同時に、わたしたちの社会はこれまで見てきたように、危機を察知したときになんかの対策も打たず放っておいたらひどいことになるという事例をいくつも経験してきました。決定的な危険が立証されていない時点での規制を行うには社会的なコストの負担があることも承知しています。もしかしたらその心配は杞憂で、まったく影響が現れない可能性もゼロではないからです。しかし逆に被害が拡大したら、その影響は膨大になります。

科学的な内容を含むこのような問題に対して、いま生きて、それらを使用しているわたしたちは、どのように向き合ったらいいのでしょうか。

科学的なデータや手法にのっとって出された結論であれば、ある程度の信憑性はあるかもしれません。でも、わたしたちは、科学がすべての課題に対して間違いない結論を導き出すための方法であると思ひこん

でないでしょうか。科学というものを過信しすぎてはいないでしょうか？

最近では、携帯電話の電磁波や遺伝子組み換え食品のような新しい技術に関して、メリットとともに、未知の危険性が指摘しでさされているものもあります。それらの危険性に科学的な確証はまだありません。もしも本当に危険性が存在するとしたら、今それらを使っているわたしたちにじわじわと影響えいきやうを及ぼしているかもしれません。

また、ときには科学的根拠こんきょが変化することは、※この章のはじめに述べたとおりです。ですから、専門家の言っていることが常に正しいわけでもありません。では、わたしたちが判断のよりどころにするものはなんでしょう。

ここで専門家をも信用できないと単純に考えるのは間違まちがいだと思います。なぜなら、「危険性があるかもしれない」と最初のひと言を発するものも、その危険性を徹底的に調べている力を持っているのも、科学者であることが多いからです。わたしたちが取り得る最善策は、科学者が見つけてきた専門知を尊重したり利用したりしながら、最終的には自分で判断することです。しかしその判断はなかなかむずかしい。だからこそ、多くの見解を知ること、多くの情報に触れることが大切です。そして、自分の知識と感覚、そう、「嗅覚きゆうかく」といつてもいいほどの鋭い感覚を持って、判断の素を育てていくしかありません。「なんだかヘン」とか「本当に大丈夫？」と考えることは一見感情的なようですが、このような姿勢が、最終的にわたしたち一人ひとりにとって生きやすい社会をつくり、後悔こうかいしない生き方を助けてくれるのではないかと、わたしは考えています。

(佐倉統 古田ゆかり リビング・サイエンス・ラボ『おはようからおやすみまでの科学』より)

※(注) 浸潤しんじゆん 水が染みこむように思想や雰囲気ふんいきが広がること。

墨守ぼくしゆ 自分の習慣や主張をかくく守って変えないこと。

去来きよらい 行ったり来たりすること。

包括的ほうかくてき 全てをまとめている様子。

信憑性しんぴやうせい 情報や証言などで、信用してもよい度合い。

この章のはじめ 筆者は、この文章よりも前に、「正しい」という基準や「これがよい」という根拠は、立場や時代、時間の経過、専門家の考え方、新しい研究結果、経済的な力関係などによって変わることがあると述べている。

問一——線①「つまり日常生活とはまだ関係がついてこないというような、未知な領域の研究をやっているのである。」とありますが、筆者が自身の研究分野を「日常生活とはまだ関係がついてこないというような、未知な領域」と表現しているのはなぜだと考えられますか。次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 筆者の研究する分野は、日常生活では人間の目に触れることのない原子や素粒子であり、具体的に目に見えるものを研究している人たちから遠ざけられてしまうから。

イ 筆者の研究する分野は、研究を進めるにしたがって日常とは縁の遠いものとなっていく、人間の生活とは無関係の問題をあつかうようになってくるから。

ウ 筆者の研究する分野は、具体的に説明することのできない自然的な世界の問題をあつかっており、人間の理解をこえた結果が出てしまうことも多いから。

エ 筆者の研究する分野は、原子や素粒子のように直接目に触れることができないものをあつかっており、日常とは縁遠いものであるから。

問二——線②「それ」の指し示す内容の説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 机や椅子、時計などといった、人間の目に見えているいろいろなもの

イ マイクロホンや時計などをいつも同じ仕掛けで動かしているもの

ウ 日常生活の中で人間がもっとよく知り、理解したいと感じているもの

エ 日常生活の中で人間の目に触れることができないくらい小さなもの

問三——線③「しかし科学の影響はそういう『物の世界』だけには限られていない。」とありますが、筆者がこのように考えるのはなぜですか。それを説明した次の文の [] a・b にあてはまる言葉を、文中からaは十五字、bは五字でそれぞれぬき出して答えなさい。

科学の進歩により、 [] a [] が一緒に変わっていくことに、 [] b [] が使われることと同
等以上の重要性があると考えているから。

問四 文中の [] A・Bにあてはまる言葉として適当なものを次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。

ア そして

イ しかし

ウ むしろ

エ つまり

オ たとえば

問五 —— 線④「そういう影響^{えいきょう}がある場合には、これは困ったことになる。」とありますが、「困ったことになる」のはどのような「場合」と考えられますか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 昔からの習慣や迷信^{めいしん}を信じる生活の方が精神的に豊かであるとして、科学を発達させることへ関心がなくなってしまう場合。

イ 生活の中の習慣や迷信といったものをかたくなに信じた結果、科学的な方法を取り入れる努力が薄^{うす}らいでしまう場合。

ウ 科学が一般の人たちの生活に入っていくことで、生活にうるおいを^{あた}えてきたしきたりや年中行事が失われてしまう場合。

エ 科学が取り入れられることにより、しきたりによって保たれていた豊かな生活を続けることが困難^{くわん}になってしまう場合。

問六 —— 線⑤「自然と皆^{みな}の物の考え方の筋が通ってくる。」とありますが、どのようにすることで「物の考え方の筋が通ってくる」のですか。解答^{かいだ}さんの「こと。」につながるように、文中の言葉を使って四十五字以内で答えなさい。

問七 —— 線⑥「合理的」の言葉の意味として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 疑うことをしようとせずに、物事を素直^{すなお}にとらえる様子。

イ 深く考えることをせずに、直感で行動する様子。

ウ 自分の利益だけを考えていて、他人を気にしない様子。

エ 物事の筋道が通っていて、余分なものがない様子。

問八 —— 線⑦「日本には時間的な奥行^{おくゆき}というものが十分にある。」について、次の1・2の問いに答えなさい。

1 「日本には時間的な奥行^{おくゆき}というものが十分にある。」とありますが、アメリカには「時間的な奥行^{おくゆき}」がないかわりにどのようなものがあると筆者は言っていますか。文中から十五字以内でぬき出して答えなさい。

2 「時間的な奥行^{おくゆき}」を言いかえた言葉を、文中から一語でぬき出して答えなさい。

問九 — 線⑧「日本の場合など、殊に京都のような古い都会に住んでいると、そういう古いがしかし、いうにいわれぬ美しさをもったものを生かしたいと思う」とありますが、筆者が「古いがしかし、いうにいわれぬ美しさをもったものを生かしたいと思う」のはなぜですか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 新しいものだけでなく古いものの良い面を生かすことで人間の美意識に満足を与えることができる。き、新しい国では味わえないよろこびを感じることができるから。

イ 新しいものを取り除いて古いものを大切にすることで人間の美意識に満足を与えることができ、人間の生活にうるおいを与えることができるから。

ウ 古いものはただ捨てていくだけであり、古いものから新しいものへと置き換えることで人間の美意識を新たに作り変えていくことができるから。

エ 古いものは日本の社会を進歩させるのに必要なものであり、古くからの習慣を捨てずに守り続けることで美意識を育てていくことができるから。

問十 — 線⑨「真理を探究すること」とありますが、「科学」において「真理を探究する」とはどうすることだと筆者は言っていますか。解答さんの「こと。」につながるように文中から四十字以内でぬき出し、その初めと終わりの五字を答えなさい。

問十一 — 線⑩「『安全性が疑わしい』と感じたそのときに対策がなされなかった」とありますが、「『安全性が疑わしい』と感じた」にも関わらず「対策がなされなかった」のはなぜですか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 危険性を科学的に証明することを制限してしまったから。

イ 危険性が確実だという科学的根拠がなかったから。

ウ 危険性が証明された科学的根拠をなかったことにしたから。

エ 危険性を立証するだけの費用をまかなえなかったから。

問十二 — 線⑪「危機を察知したときになんの対策も打たず放っておいたらひどいことになる」という事例とありますが、Ⅱの文章の中で「事例」はいくつ書かれていますか。数字で答えなさい。

問十三 — Ⅱの文章で、筆者は「わたしたち」が「科学」に対してどのように思っていることが問題であると指摘していますか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 科学的に危険であっても、新しい科学技術を取り入れるべきだと思っていること。

イ 科学は人間の生活に悪い影響を与えて、被害を拡大させるものだと思っていること。

ウ 科学はすべての課題に対して、間違いない結論を導き出せると思っていること。

エ 科学的なデータや手法は、社会の問題を解決できないものであると思っていること。

問十四

AさんとBさんの二人が、ⅠとⅡの文章について話し合っています。次の会話を讀んで、後の1・2の問いに答えなさい。

Aさん Ⅰの文章は、科学の進歩が人間に幸福^{あた}を与えるものになるのだろうか、といった疑問が書かれていたね。兵器として ① が出てきてから、科学者だけではなく、一般^{いっぱん}の私たちにも気にかかる問題ではないか、とも書いていたよ。

Bさん Ⅱの文章では、科学的な内容^{ふく}を含む問題に、私たちがどのように向き合えばよいかが書かれていたね。筆者は、科学者の ② を取り入れながら最終的には ③ が大切だというけれど、そのためには、どうしたらいいのだろうか。

Aさん それについては、Ⅱの文章の終わりに、私たちは多くの見解や情報を得て、鋭い^{するど}感覚でもって判断の素^{もと}を育てていくことが大切だと言っていたね。

Bさん Ⅱの文章と共通するようなことが、Ⅰの文章の終わりにも書かれていたよ。科学の進歩と同時に、私たちの考え方が合理的になり、いろいろな考え方が調和されて、それらをまとめ
ていって、 ④ になっていくと言っていたね。

Aさん そして、Ⅰの文章の筆者は、 ④ になることによって、人生で一番大切な
⑤ が実現されたとき、本当の意味で科学というものが生かされたことになると思います。
ていたね。

1 ①～④には文中の言葉が入ります。①は四字、②は三字、③は十字以内、④は十一字で
それぞれぬき出して答えなさい。

2 ⑤にあてはまる言葉として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を
答えなさい。

- ア 人間関係で起こるいさかかが整えられて、皆^{みな}の考えが均等な一つの意見にまとめられること
- イ 人間と人間の関係がうまく調節されて、皆がしあわせに社会生活を送れるようになること
- ウ 人間がしあわせに暮らしていくために、皆が科学の進歩よりも人間関係を優先すること
- エ 人間同士の争いや矛盾^{むじゆん}が解決されて、皆が科学を進歩させようと努力すること

二 次の漢字と言葉に関する問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤の――線部のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。

- ① エンガン地域の国を旅する。
- ② 友達の絵を見るためにテンラン会へ行く。
- ③ 海からシオカゼがふいてきた。
- ④ 生徒会長をツトめる。
- ⑤ アツみのある本を読む。

問二 次の①～④の――線部の漢字の読みを、それぞれひらがなで答えなさい。

- ① 初日の出を拝む。
- ② 負けるつもりは毛頭ない。
- ③ 記念品の目録を受けとる。
- ④ 親友の弁護をする。

問三 次の①～③について、にあてはまる言葉を後のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。また、完成された言葉の意味をAとBからそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。

- ① 一寸のにも五分の魂たましい

【にあてはまる言葉】

ア ちよう イ あり ウ むし エ はち

【言葉の意味】

- A どんなに小さく弱いものでも、それなりの意地があること。
- B たとえ小さく弱いものでも、真剣しんけんな思いは相手に伝わるということ。

- ② 取らぬの皮算用

【にあてはまる言葉】

ア ねこ イ たぬき ウ きつね エ たち

【言葉の意味】

- A まだそうなくてもいないのに、あれこれと考えて計画を立てること。
- B 相手をだます計画を立てたのに、反対にだまされてしまうこと。

- ③ 能ある は爪を隠す

【 にあてはまる言葉】

ア たか イ にわとり ウ とんび エ つる

【言葉の意味】

- A 本来に実力のある人は、困った時でもすぐに人をあてにしないということ。
B 本来に能力のある人は、それを人に見せびらかしたりしないということ。

問四 次の①～③の各組の A・Bには異なる漢字が一字ずつ入り、A・Bの順に組み合わせると熟語が出来上がります。完成した熟語を答えなさい。

- ① 大義 A 分 | 日進 B 歩
② 大器 A 成 | B 夏秋冬
③ 異口同 A | 十人十 B

問五 次の①・②の中で——線部の語と同じ働きをするものを、後のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。

- ① 友達に本を貸してもらう。

ア 友達の思いやりに感謝する。

イ 渋谷駅に集合する。

ウ 兄が高校生になった。

エ 先生に教えられた。

- ② 早く出発しないと遅刻してしまいます。

ア 運動会は雨が降ると中止になります。

イ 私には兄と妹がいます。

ウ 絶対に合格するぞと思いました。

エ 友達といっしょに学校へ行きました。

